2020年8月9日

紙相撲新聞

第152回本場所
四～五日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

春翔白閃5連勝

春ノ翔通算18連勝、歴代10位
若ノ嶋 佐賀海 千代鈴ら1敗追走

【第百五十二回本場所四日～五日目】

第152回紙相撲本場所は前開催日より三週間が過ぎた8月9日、不快さを感じる蒸し暑い天候のもと都内では連日コロナ感染者数が拡大するなか、新弟子検査のあと幕内十両の四日目、五日目と幕下育成会の初日が練馬国技館にて取り行われた。またこの日は以前より参加希望のあった山口翔太郎氏が初来館し、親方衆と紙相撲談義に花を咲かせて本場所の土俵を楽しんでいた。

↑五日目、全勝の大関春ノ翔は、合口のいい出羽翼を難なく押し倒し今場所も5連勝。これで先々場所から通算18連勝とした。

先場所の全勝優勝からの勢いが止まらない春ノ翔は、四日目に小結に返り咲いた大神楽と対戦。横綱、大関を撃破し磯ノ海親方から期待がかかった一番だったが、立ち合いから鋭い出足で攻め込んだ春ノ翔が大神楽には何もさせず一気に寄り切って4連勝を決めた。

翌五日目はこちらも1敗で先頭を追う出羽翼との一番。立ち合いから厳しい当たりで前に出る左を伺う出羽翼、しかし出羽翼の左を封じ回り込ませず右のどじ輪を差すと一気に押し倒して全勝を守り連勝を18に伸ばした。

春ノ翔○（寄り切り）●大神楽

この二日も安定感は揺ぐ事無くこのまま先頭は譲らなさそうだ。果たして先々場所から続く連勝もどこまで伸ばすのか？

三役から陥落し下降の一途が続いた白閃光元大関だけあって前頭の中位では元々の自力を発揮して3連勝で迎えた四日目は同じく全勝の伊達の富士と対戦。互角の立ち合いからがっぷり四つの攻防を見せ、右を押っつけ合う両者。どちらが右を差せるのかとの予想のなか、左に回りこもうとする伊達の富士の一瞬の隙を突いて右を制した白閃光がのど輪から押し倒しに降し4連勝。

新大関の佐賀ノ海は四日目の出羽翼戦で立ち会いから土俵際まで追い詰めるも、回り込まれのど輪から押し倒され1敗に後退。続く五日目の白閃光との一番。得意とする右からの押っつけは見せず左を差しながら体を寄せるとそのまま寄り切って5連勝を決めた。この5勝のうち三つを左差しで寄り切っており、得意の右だけでなく左右の攻めを見せる今場所。このまま白星を重ねてダースホースとなるのか。磯ノ海親方からの期待も大きい。

伊達富●（押し倒し）○白閃光

佐賀海○（押し倒し）●烏帽子

その先頭勢を追う一敗の若ノ嶋は四日目の烏帽子岳との一番で立ち会いからのがっぷり四つでの攻防から終始攻め続け寄り切りに降すと、翌五日目の朱雀湖との一番でもがっぷり四つに組んで、朱雀湖のどじ輪をもとものどじ輪をとらせず左差し下手投げに降した。

若ノ嶋○（下手投げ）●朱雀湖

今場所の新入幕の三名は若柱と太刀鳳が1勝1敗と健闘しており、悲願の新入幕を果たした龍不動も2連敗の苦いスタートだったが3連勝で白星を先行させ、注目の新関脇、令和の怪物千代鈴は四日目の支那虎戦ではなかなか組手が合わず、2分半にも及ぶ長い仕切りのあと立ち上がると支那虎の出足を受け止めて左を伺いながら一気に寄り倒しに沈めると、翌五日目の四季嶋戦でも、立ち会いから右の押っつけで相手の体を起こして一気に押し倒し連日秒殺に沈めた。

一方で魁電の星が上がらない。先場所は不戦勝2つの幸運に恵まれて何とかカド番を脱出したが、不調は変わらず四日目は四季嶋を寄り切りで下したものの続く五日目は攻めながらも下半身が付いていかず支那虎引き落とされて早くも4敗目。奇手に頼らず、以前のように堂々と勝ち進んでもらいたいものだ。

千代鈴○（押し倒し）●四季嶋

千代鈴○（寄り切り）●支那虎

連勝記録

連勝	記録
18	春ノ翔※継続中
10	英
9	富士登
8	美空富士
8	照の花
6	扇灘
6	荒登
4	富士登
4	美空富士
4	照の花
3	荒登
1	扇灘
1	荒登

第152回本場所星取表

| | | |